

# いじめを速やかに解消した事例11（高等学校第2学年男子）

## ～ 学年団を中心とした組織的な対応～

### 問題の把握

11月5日（月）に実施したいじめのアンケートに、同じ学年の生徒複数名から「からかわれたり、悪口を言われる」との記載があった。その後、学級担任が個別に面談したところ、小・中学校の時から恒常的にいじめを受けている事実を認知した。

### 対応状況

**年度初めの体制** 職員会議：いじめの問題への対応方針、校内体制について全教職員で確認  
PTA総会：学校の対応方針の説明、家庭や地域からの情報提供の依頼

- 11/5（月）いじめのアンケートを実施し、いじめの事実を把握した。  
アンケート用紙の工夫（学校は道教委のアンケートをベースに独自様式を作成）
- ・誰にどのようないじめを受けているのか把握できる。
  - ・いじめをなくすための方策について生徒の意見を書く欄を設けている。
  - ・「いじめ相談電話」を紹介するカードを貼り付けて示している。

### いじめられている生徒・保護者への対応

- （いじめの状況の把握）即日対応  
学級担任：いじめられた生徒及び保護者との面談
- ・いじめの状況把握
  - ・生徒・保護者の要望把握
  - ・今後の対応説明
- 学年団：周辺の生徒からの情報収集

#### 学年団による指導方針の確認

- ・いじめている生徒への指導、いじめられている生徒へのケア

### その他の生徒への対応

**アプローチ**  
HRにおける、いじめが許されない行為であることについての一般的な話

**アプローチ**  
いじめの問題について主体的に考える場の設定

当初、生徒及び保護者が事実の公表を望まなかったためアプローチのような対応としたが、状況が好転しなかったことから、了解を得てのような対応とした。

### 教職員の対応

- ・全教職員に対していじめの状況や対応状況について逐次周知
- ・教職員へのアンケートの実施  
未然防止のための日常の指導や教育相談による早期発見の体制などの点検項目の位置付け
- ・校内研修会の実施  
教職員アンケートの結果の分析に基づき実施  
校内研修のまとめ

いじめはどの学校でもどの子にも起こり得ることについて共通理解の確認  
生徒の発する小さなサインを見逃さないとともに教職員間で情報共有することを確認

### いじめの解消

- ・当該生徒と面談の結果、いじめは11/13（火）に解消したことを確認  
保護者との連携
- ・学級担任及び学年団が対応、保護者への指導内容及び改善状況の報告

### いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・年度当初に学校としての対応方針を生徒・保護者に説明し、理解を得ておくこと。
- ・全教職員が情報を共有するとともに、統一した指導方針の下、組織的に速やかに対応すること。
- ・保護者の意向を尊重して対応するとともに、対応状況を逐次報告して不安を抱かせないこと。
- ・改善状況の把握のため、全教職員で生徒観察・校内巡視等に努め、生徒のサインを見逃さないこと。

